

調査・事例収集の中間報告① UIターン及び二地域居住の実例追跡調査

(1)調査の概要

- ・ 移動の継続と終了の要因を分析するために、UIターンまたは二地域居住の経験者へのインタビューを通じて実例を収集した。
- ・ 具体的には、人の誘致活動に従事している自治体の担当部署などに対象者をご紹介を受け、インタビューを実施。
- ・ インタビュー件数は、Iターン定住17件(うち2件は終了)、二地域居住者2件の合計19件。個別事例については別添の個票のとおり。

(2)ヒアリング結果のポイント

①移動の目的

- ・ 定年後は、アウトドア志向や自然志向を満たす生活を目的とし、現役の場合は、就農やペンション経営などが目的であった。

②移動地域の選択理由

- ・ 居住経験があるなど土地勘があり、かつ好感を持っていた例が多かった。地域の気候や自然、地元の人々などを挙げる例も多かった。

③移動までのプロセス

- ・ きっかけとして、新聞記事やテレビの番組が大きな影響力があった。移動を思い立った後は、雑誌やインターネットで情報収集を行い、短期または長期の体験滞在をするという人が多かった。

④移動にあたっての問題点

- ・ 価格相場がつかみにくい、条件に合わないなどの理由から、程度の差はあっても住居や土地を探すことが大変であったと考えている人が多かった。一方、地元の人々の協力によって解決した例も多い。

⑤現状の問題と将来的な不安

- ・ 就農したものの、経済的に不安定である。
- ・ 過疎地域では学校の統廃合や医療機関の存続が不安である。
- ・ 自動車の運転ができなくなると、生活が成り立たないと考える人が多い。

⑥行政への要望と提案

- ・ 定住者のニーズにあった情報の収集と提供が望ましい。ネットによる情報提供には限界があるので、相談窓口や機関が必要である。「田舎暮らし」の良さを広めて欲しい。
- ・ 誘致に終わらず、その後のケアに注力して欲しい。日常生活のなかで人とのつながりをつくるサポートをすることが大事である。また、学校の存続や高齢者対策なども望まれている。

ヒアリングのまとめ(1/2)

質問項目		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
①属性	年代	50代	40代	50代	60代	40代	40代	60代	50代
	性別(回答者)	男性	男性	男性	男性	男性	男性	男性	女性
	世帯構成	夫婦	夫婦	夫婦・子供	夫婦・子供	夫婦・子供	夫婦	夫婦	夫婦・子供
	出身地	北海道	中部地方	近畿地方	関東地方	関西地方	関東地方	九州地方	関東地方
	前居住地	関東地方	中部地方	近畿地方	関東地方	関西地方	関東地方	九州地方	関東(本宅)
	職業(回答者)	農業/不動産賃貸業	農業	農業	無職	農業その他	介護関係	無職	不動産会社営業
②移動先での暮らし方	移住形態	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	二地域居住
	移住先	近畿地方	近畿地方	近畿地方	近畿地方	近畿地方	近畿地方	甲信越地方	甲信越地方
	移住時期	昭和63年	平成5年	昭和63年	平成8年	平成2年	平成18年	平成17年	-
	住居形態	賃貸	購入	購入	購入	賃貸	賃貸	購入	購入
	家族の同居	夫婦	夫婦	夫婦・子供	夫婦・子供	夫婦・子供	夫婦	夫婦	家族同行の場合もあり
	移住地就労先(世帯主)	自営	自営	自営	-	-	福祉施設	-	-
	移住・就労に際しての支援	-	-	-	-	-	-	-	-
③移動を考えたきっかけと移動の目的	人の少ない所に住みたい	有機農業に関心	子供の健康のため	自然のある生活へのあこがれ	農業に関心があった	農業に関心があった	定年後、違うところに住みたい	ご主人の早期退職後の移住を想定	
④移動地域の選択理由	有機農業の推進団体があった	有機農業の推進団体があった	比較的成本が安い	気候、地元の人の魅力	有機農業の推進団体があった	居住経験があり好感	気候が気に入った	生活環境	
⑤移動開始までのプロセス	新聞記事をきっかけ上記団体を知り、住居探し	半年間の農業研修	短期間のオリエンテーション→家族の視察→家探し	いろいろな物件を視察。	上記団体を知り、住居探し。先住者の支援を受けた	農業塾に参加。移住の制約となった事情が解消したため移住	雑誌、インターネット等で情報収集→現地視察	別荘として購入。就労後は週の約半分を二地域居住	
⑥移動に当たっての問題と克服方法	他の移住候補地との比較	家族の反対	-	長野と比較	-	-	-	-	
⑦現状の問題点および将来的な不安	移住先で困ったこと	生活が不安定、獣害	経済的な事情。副業でカバー	経済的な事情	-	経済面での不安	-	-	
	将来の不安	農業の継続	両親の面倒。農地の手当て	-	息子の代での不動産の維持	-	経済面での不安	車の運転の継続	車の運転の継続
⑧国・自治体に対する要望	資金的な援助	生活・就労体験の提供支援	Iターン者の老人対策	-	学校の存続	-	-	-	
	学校の存続	-	-	-	誘致に対する行政の協力	-	-	-	

ヒアリングのまとめ(2/2)

質問項目		No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16
①属性	年代	60代	60代	50代	50代	60代	50代	60代	60代
	性別(回答者)	男性	女性	女性	男性	女性	男性	男性	男性
	世帯構成	夫婦	夫婦	夫婦	夫婦・子供	夫婦	夫婦・子供	夫婦	夫婦
	出身地	関東地方	中国地方	中国地方	関東地方	関東地方	関西地方	関東地方	関東地方
	前居住地	関東地方	中国地方	中国地方	関東地方	関東地方	関東地方	関東地方	関東地方
	職業(回答者)	無職	無職	無職	ペンション経営	無職	ロッジ経営	無職	無職
②移動先での暮らし方	移住形態	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住	Iターン定住
	移住先	関東地方	中国地方	中国地方	北海道	北海道	東北地方	関東地方	甲信越地方
	移住時期	平成15年	平成16年	平成18年	平成11年	平成13年	平成14年	平成17年	平成15年
	住居形態	購入	購入	賃貸	購入	賃貸	購入	借地	賃貸
	家族の同居	夫婦	夫婦	夫婦	夫婦・子供	夫婦	夫婦・子供	夫婦	夫婦
	移住地就労先(世帯主)	-	-	学校	自営	-	自営	-	-
	移住・就労に際しての支援	-	支援金	懇親会参加、各種相談	情報提供、不動産業者紹介	-	-	-	-
③移動を考えたきっかけと移動の目的	自然の中で暮らす	定年後の生活を楽しむ	田舎の穏やかな環境で暮らす	ペンション経営を希望	定年後の生活を楽しむ	チャレンジしたい。グリーンツーリズムを広めた	農業をしたい	田舎で暮らしたい	
④移動地域の選択理由	アクセスと環境の良さ	土地勘、好感があった	土地勘、好感があった	居住経験、好感があった	居住経験、好感があった	気候と観光地化されていない所	当地のクラインガルテン経験者	当地のクラインガルテン経験者	
⑤移動開始までのプロセス	現地視察をいろいろ	1年間滞在	懇親会参加→住居探し→仕事探し	職業訓練→土地探し→開業	長野、伊豆と比較	現地視察をいろいろ	二地域居住を経て定住	二地域居住を経て定住	
⑥移動に当たった問題と克服方法	他の移住候補地との比較	-	医療機関に対する不安	住居探し、仕事探し	ご両親の反対	-	物件の選択。田舎の土地は高い買い物	土地探し。ガルテンに入居後、地域にできた知人から借地	
⑦現状の問題点および将来的な不安	移住先で困ったこと	-	-	羽虫が集まる	-	道路の凍結	学校の廃校、インフラ	農作業に係わる経費の相場がわからない	
	将来の不安(希望)	車の運転の継続	1人になった場合の家の維持	就労の継続、車の運転の継続	-	車の運転の継続	医療機関の存続	NPO活動をした	
⑧国・自治体に対する要望	-	-	-	ニーズにあった情報収集・提供、田舎暮らし	準備のための資金助成	誘致に終わらず、その後のケアを	適正な不動産価格情報の提供	誘致後の経過に関心を	
	-	-	過疎地の道路整備	先住者によるサポートシステムの構築	人とつながりを作るサポート	相談窓口の増設や誘致のPR	日常的な相談機能	-	

No. 1

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫（50代）・妻（50代） 職業：農業、不動産賃貸業 出身地：北海道</p>
②移動先での暮らし方	<p>移動時期：昭和63年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：近畿地方山間部</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>人が好きでないので<u>人の少ないところで住みたかった。</u></p>
④移動地域の選択理由	<p><u>有機農業をしたい</u>というのが理由。</p>
⑤移動開始までのプロセス	<p><u>有機農法により農業を指導する活動家がいる</u>ということ <u>を新聞で知りその組織の存在を知った。</u> 住まいは、知人からの紹介で10ヶ月から1年かかって やっと今の家が見つかった。</p>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<p>家族の反対があったが話し合いで、結果的に自分の意見を 通す形となった。</p>
⑦現状の問題点および将来的な不安	<p>不安としては、年齢の関係であと何年やっていけるか<u>経済的に不安</u>。 農業は気象条件その他によって生活が不安になる。 獣害が発生しておりサル、いのしし、鹿、アライグマなどが農作物を荒らす。 サルはとくに深刻で、柵があっても乗り越えるのでお手上げ状態。 爆竹銃で追い払っている。</p>
⑧国・自治体に対する要望	<p>Iターン者の収入は決して多い方ではない。<u>資金的な援助はしてもらいたいが、かといってあまり口は出さないでほしい。</u> <u>小学校の存続は重要な問題</u>で子を持つ若いIターン者が特定の地区に集中しているのは学校があるため、学校がなくなると若いIターンは来ないだろう。 山村一時留学をもっと呼んで学校の生徒を増やすなどの対策を講じる。</p>

No. 2

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（４０代）・妻（４０代） 職業：農業 出身地：中部地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成５年 移動形態：単独でＩターン、その後結婚 現住所：近畿地方山間部
③移動を考えたきっかけと移動の目的	学生時代にエコロジー有機農場の本を読み、 <u>有機農業に関心を持ったこと</u> に始まる。
④移動地域の選択理由	<u>有機農法を推進・指導する団体があった</u> 。そこでいろいろと話を聞き、数ある問題もクリアできそうに思われたので
⑤移動開始までのプロセス	はじめは別の場所に定住していた。その後この地域で <u>半年間農業実習を受けた</u> 。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	当時独身で妻は結婚前のためいなかったが、親は賛成した。 住まいは、はじめの１年半は間借り。その後結婚（９年前）し現在の家を取得。 <u>農業だけでは厳しい</u> ので、いろいろな仕事を紹介してもらいながらで生計を立てた。現在の家は前のオーナーが高齢化したため紹介で取得できた。
⑦現状の問題点および将来的な不安	いずれ親の面倒を見なければならない点が将来の不安としてある。 農地の条件のいいところが少なくなっている。空き家、 <u>農地幹旋</u> といっても中々思い道理にはない。 <u>今後Ｉターン者が増えすぎるのも問題</u> だろう。
⑧国・自治体に対する要望	移住に際しては、 <u>農業実習や１ヶ月のお試し期間が必要だ</u> 。個人が村に溶け込めるか、Ｉターン者の実際の生活を見たり話を聞いたりしてから移住を決める今のこの地域のシステムは有効に機能していくだろう。 個人の力に頼っている部分が多いが、 <u>行政がもっとサポートしていくことが必要だ</u> 。

No. 3

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫（50代）・妻・家族4人 職業：農業 出身地：近畿地方</p>
②移動先での暮らし方	<p>移動時期：昭和63年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：近畿地方山間部</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>家の回りは町工場が多く子供は弱かった点にあり大阪の水はカルキがきつく、山の湧き水に出会ったのがそもそもの始まり。 食物に関心を持つようになった。</p>
④移動地域の選択理由	<p>はじめは遊びで信州方面に出かけて移住先を探したが、値段が高いのでやめた。</p>
⑤移動開始までのプロセス	<p>3泊でオリエンテーションを受けた。いろいろな人に会い農業を手伝った。 8月に一度見に来た。12月に家族で見に来た。翌年5月に空き家を見に来た。8月に移動した。</p>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<p>家族の合意：<u>母が農業をやっていた人なので農業の厳しさを身をもって知っていたので反対したが進めた。</u></p>
⑦現状の問題点および将来的な不安	<p>就労は農業だけで手いっぱい。<u>経済的に厳しく食費は自給自足なので何とかなるが、車の車検や健康保険などの出費は負担が大きい。</u>年金は免除申請をしている。</p>
⑧国・自治体に対する要望	<p><u>Iターン者の老人対策を考えてほしい。</u>老後も安心して暮らせる体制、たとえばコミュニティービレッジのようなものなどを作ってほしい。</p>

No. 4

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫（60代）・妻・家族3人 職業：無職、同居の次男は地元医療機関に勤務 出身地：関東地方</p>
②移動先での暮らし方	<p>移動時期：平成8年 移動形態：夫婦でIターン（その後次男もIターン） 現住所：近畿地方山間部</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p><u>アウトドアが好きで、自然のある生活にあこがれていた。</u> <u>子供たちも巣立ち妻の母が亡くなった。</u></p>
④移動地域の選択理由	<p>この地域を訪問してみて、きっといいところだろうと思った。 気に入ったのは①<u>温暖なところ</u> ②きのこに関心があったがそれにふさわしい土地 ③<u>山と海の両方がある</u> ④<u>予算的に折り合いがつく</u>といった点だ。 <u>実際に入ってきて分かったが、Iターン者にも地元の人にも魅力的なところだ。</u> 生活していくうえで人間が尊敬に値する人がいる点が大きな要素だ。 年を取って死ぬ場所、古来からの詣の場所、なんとなく霊界に近い場所と思った。</p>
⑤移動開始までのプロセス	<p>関西の物件をいろいろ搜したがどれも高かった。 <u>田舎暮らしの雑誌を見てこの地域のことを知った</u></p>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<p>移住について家族の反対はなかった。</p>
⑦現状の問題点および将来的な不安	<p>次男は昨年11月に引っ越してきて、敷地の離れに住んでいるが<u>息子の代になったときに不動産をどうするのが不安材料</u>としてある。</p>
⑧国・自治体に対する要望	<p>行政に対する要望は特にはない。</p>

No. 5

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫（40代）・妻・家族5人</p> <p>職業：農業、時々林業のアルバイト、その他副収入、妻は介護ヘルパー</p> <p>出身地：関西地方</p>
②移動先での暮らし方	<p>移動時期：平成2年</p> <p>移動形態：夫婦でIターン（その後次男もIターン）</p> <p>現住所：近畿地方山間部</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p><u>農業に関心</u>があった。農業塾に参加したことがある。</p>
④移動地域の選択理由	<p>集団で行わないと農業は厳しい。行き詰ったときにこの地域のことを知った。</p> <p>年中農業ができる温暖な気候（本来農業に適している土地というわけではないが）が気に入った。</p>
⑤移動開始までのプロセス	<p><u>土地探しの段階から世話する人的共同体</u>があった。テントを持ってこの地を訪問した。</p> <p>住まいは町営住宅（家賃1万5千円 6畳3部屋、キッチン）だが農業用の住宅でないのが難点。</p>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<p>特になし。</p>
⑦現状の問題点および将来的な不安	<p><u>経済面で不安がある。農業収入だけでは厳しいのと、気象条件などによる不安定さが問題。</u>妻とのライフスタイルの考え方の違いがある。</p>
⑧国・自治体に対する要望	<p>学校の存続が重要。若い人が来るには学校の存在が重要な要素。</p> <p>山村留学など受け入れ態勢を整備し、もっと人が来るようにすべきだ。</p> <p>これまでは行政を頼らずにやってきたが、ベテランIターン者にばかり頼ってはだめ。彼は自分の農業の仕事や地域活動の時間を割いてこうした広報的な活動をしている。</p>

No. 6

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（４０代）・妻（３０代） 職業：介護関係の仕事 出身地：関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成１８年 移動形態：夫婦でＩターン 現住所：近畿地方山間部
③移動を考えたきっかけと移動の目的	以前から <u>自然の中での生活</u> を考えていた
④移動地域の選択理由	6年前にここに来て半年間いたことがあり、以前からこの地に住もうと決めていた。 事情があつてすぐに移住できなかった。その後再度来て1年間暮らした
⑤移動開始までのプロセス	事情があつてすぐに移住できなかった。その後再度来て1年間暮らした。 <u>住居は賃貸で間借りしている。紹介で世話してもらった。</u>
⑥移動検討にあつた時の問題と克服方法	2人同じ考え方なので問題はなかった。
⑦現状の問題点および将来的な不安	将来の不安としては経済的不安がある。
⑧国・自治体に対する要望	行政に対する要望は特になし。今のこの地域のままが変わらないでほしい。 今後もっとIターン者は増えていこうが、緩やかな変化の中でみんなで話し合いながら物事を進めていくのがよい。

No. 7

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（60代）・妻（60代）※子どもは独立 職業：無職 出身地：夫婦とも九州地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成17年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：甲信越地方
③移動を考えたきっかけと移動の目的	60歳の退職とともに移住する前提で、 <u>退職の4～5年前から候補地を探していた。</u>
④移動地域の選択理由	前居住地は勤務先に近く、退職したら離れたいと思っていたこと、九州の湿度の高い気候から逃れたいと思っていたことが理由。
⑤移動開始までのプロセス	お嬢さんが付近のペンションでアルバイトしていた時に旅行に来てこの地が気に入り、第一の候補とした。信州を中心にテレビ、雑誌、インターネットなどで情報を収集し、2回訪問。3回目で決定した。情報収集・検討は主として奥様が担当。 土地を購入し、すぐに建築。退職翌年の6月には移住。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<u>移住に対する抵抗感は小さかった。</u> 社交は得意なタイプ（ご主人）。お子さんは独立して関東と関西に在住。
⑦現状の問題点および将来的な不安	特に問題はない。 山歩きに熱中している。 <u>地域の歩こう会、シニア・ソフトボールチームに参加している</u> 他、別荘地の新住人を案内する山歩きも行っている。移住者で山歩きを始める人は多い。気候は快適で、意外と寒くはなく、光熱費は大分にいたときよりもかからない。 別荘地内のため管理が行き届いており、管理事務所に苦情を相談することもできるため、生活に不便はない 商業機能は車で10-15分くらいのところに数箇所あり、品揃えの良い店もある。医療機関もある。 しかし、 <u>車が運転できないと生活は不便。</u>
⑧国・自治体に対する要望	現在、特に要望とするものはない。

No. 8

質問事項	回答
①属性	年齢：50代（女性） 職業：不動産会社営業 出身地：関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：－ 移動形態：二地域居住 現住所：甲信越地方（本宅は関東地方）
③移動を考えたきっかけと移動の目的	ご主人が <u>早期退職の移住</u> を前提に当地に住居を購入。
④移動地域の選択理由	－
⑤移動開始までのプロセス	現地見学に来て、比較的すぐに決定。ご主人が早期退職を中止した後は別荘として利用していた。現在は、ご自身が当地の不動産会社で就労することになったため、週の後半を当地で暮らしている。ご家族が同行するときもある。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	－
⑦現状の問題点および将来的な不安	当地は車さえあれば、商業機能、文化施設などにも恵まれ、快適な暮らしができる。しかし、車がなければ、暮らせない。
⑧国・自治体に対する要望	－

No. 9

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（60代）・妻（50代）※子どもは独立 職業：無職 出身地：夫婦とも関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成15年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：関東地方山間部（別荘地内）
③移動を考えたきっかけと移動の目的	定年退職とともに移住。 <u>山が好きで、自然の中での暮らしがしたい</u> と以前から考えていた。畑で作物を作るのが好きで勤め中でも群馬県の畑で作物を作っていた関係で、定年後は農作業ができる場所に住みたいと思っていた。
④移動地域の選択理由	<u>交通アクセス（インターから10分以内）、堆肥の悪臭がない、森林の心地よさ、農作業ができる、管理状態がよい、敷地内2車線道路、上下水整備などインフラ面の充実、等々の総合判断で決めた。</u>
⑤移動開始までのプロセス	<u>いろいろ現地を見ながら検討したが、上記の総合判断で最終的に決めた。</u>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	夫婦ともに考え（ライフスタイル）が同じなので移住に問題はなかった。
⑦現状の問題点および将来的な不安	特に問題はない。 地域の活動（英会話教室）には婦人が参加している。 スーパーまで6km、片道20分に行けばもっと大きなスーパーやホームセンターがあるが、 <u>車が無いと生活は不可能。</u> 農作業をやり自家消費している。農地は隣の農地を借りて耕している。 6畳ほどの小屋を自分で建て、時計修理など趣味の時間を過ごしている。 将来のことはあまり考えていない。体が動けなくなったらそのとき考える。
⑧国・自治体に対する要望	特になし

No. 10

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（60代）・妻（60代） 職業：無職 出身地：夫（九州地方）・妻（中国地方）
②移動先での暮らし方	移動時期：平成16年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：中国地方中山間地域
③移動を考えたきっかけと移動の目的	夫の定年をきっかけに移住を検討。夫が陶芸に興味があり、1年間当地の陶芸研究所に通う。その間に、定住したいと考えるようになる。
④移動地域の選択理由	前の住居から車で1時間程度ということもあり、 <u>もともと土地勘もある。当地が気に入ったゆえの移住であったため、他の地域との比較は行わなかった。</u>
⑤移動開始までのプロセス	<u>1年間陶芸研究所に通う。移住を考えてから、家を探したが、中古物件に気に入ったものがなかった。地元の知人から支援団体の紹介を受け、中古空き家を見つける。</u>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	移住にあたってのサポートで大変助かったことは、 <u>一定期間に月に5万円の支援金が出たこと。また、月1万円の宿舍が借りられたこと。</u> 医療について不安に思っていたが、近所の人で紹介で満足できる医療機関が見つかる。
⑦現状の問題点および将来的な不安	現在、困ったことはないが、 <u>将来的にもし1人になったら、家が維持できるか不安である。</u> 敷地が広く、現在でも草刈は大変である。 春から秋は楽しいが、最初の頃は雪の降る冬の過ごし方に困る。 もう少し、文化的な催しがあると良い。 知人の紹介で百人一首のサークルに入り、楽しく生活をしている。
⑧国・自治体に対する要望	現在、特に要望とするものはない。

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（50代）・妻（50代） 職業：教職 出身地：夫（中部地方）・妻（中部地方）
②移動先での暮らし方	移動時期：平成18年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：中国地方中山間地域
③移動を考えたきっかけと移動の目的	病気をきっかけに、 <u>田舎の穏やかな環境のなかで暮らしたい</u> と考えるようになった。
④移動地域の選択理由	ご主人の母上の出身地で、 <u>土地勘および好感あったため、他の地域との比較はしなかった</u> 。しかし、 <u>誘致機関の親身な対応や先行移住者が中心となって活動しているNPOに接して心強く思ったことも促進要因</u> 。
⑤移動開始までのプロセス	情報収集→自治体主催の懇親会参加→住居探し→仕事探し。移動を思いついてから実行までの期間は1年弱。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	最初は空き家を探したが、都市のマンションと機能の差が大きく困っていたところ、紹介された県営住宅が気に入りに入居。 <u>仕事の確保が心配であったが、誘致機関の紹介で解決</u> 。 <u>「田舎」の慣習や地域にとけこめるかという不安もあったが、行政の親身な対応や先行移住者の存在によって解消</u> 。
⑦現状の問題点および将来的な不安	羽虫が集まるのに困ったことがあるが解決。 将来的な不安は、 <u>就労の継続、車の運転ができなくなった後の移手段、医療・介護</u> 。
⑧国・自治体に対する要望	定住希望者のニーズにあった情報の収集・提供。ネットの情報には限界があるので、 <u>相談窓口や機関が必要</u> 。 <u>「田舎暮らし」という選択肢の紹介。「田舎」に対する固定観念を払拭し、その良さを広く知らせて欲しい</u> 。 車社会の田舎では生活のために道路が必要。過疎地でも道路整備は進めて欲しい。 アクセスと住環境を整えて、過疎への企業誘致に国も力を入れて欲しい。

No. 12

質問事項	回答
①属性	年齢：50代（男性） 職業：ペンション経営 出身地：関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成11年 移動形態：家族でIターン 現住所：北海道
③移動を考えたきっかけと移動の目的	ペンション経営を希望。
④移動地域の選択理由	転勤による <u>居住経験</u> があり、 <u>好感</u> を持っていた。他の地域との比較はなし。
⑤移動開始までのプロセス	移転の6年前に準備を開始。職業訓練→土地探し→開業。 <u>自治体東京事務所を通じた情報収集</u> 。不動産業者の紹介も受けた。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<u>ご両親の反対</u> はあったが説得。
⑦現状の問題点および将来的な不安	特になし。当地は気候も良く、町のサイズ、交通手段、都市機能の発達など、生活環境に優れる。アウトドア趣味も楽しみやすい。暮らしやすい町である。東京から移住している人も周辺に多い。
⑧国・自治体に対する要望	移住する人にとっての問題は <u>仕事と住むところ</u> 。住宅購入に際して、 <u>期限付きの固定資産軽減措置</u> や、 <u>移住準備のために移住先に出向く際の交通費の助成</u> などがあると良い。 <u>大事な事は先住者（先にその地に移住し、既に生活をしている人々）の意見を移住しようとしている人達に伝えるシステムを作る</u> こと。少なくともご自身はいろいろな面でサポートしたいと思っている。システムがある程度確立できれば移住者達の指針になることは間違いの無いところだと思う。

No. 13

質問事項	回答
①属性	年齢：60代（女性） 職業：無職 出身地：関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：平成13年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：北海道
③移動を考えたきっかけと移動の目的	ご主人の定年をきっかけに、 <u>第二の人生を楽しむために移住を考えた。</u>
④移動地域の選択理由	転勤で居住経験があり、 <u>好感を持っていたこと。都市の利便性と飛行機を使えば、東京にもアクセスが良いことが選択のポイントになった。</u>
⑤移動開始までのプロセス	考え始めてから半年で移住。長野、伊豆も候補地であったが、アクセス、生活環境などで、 <u>当地を選択。自治体による支援は人の誘致が活発化する以前なので、特になし。</u>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	特になし。
⑦現状の問題点および将来的な不安	道の凍結が怖い。 <u>将来の不安は自動車の運転ができなくなった後のこと。福祉タクシーが発達してくれることを期待。</u>
⑧国・自治体に対する要望	<u>自治体が行うべきだと考えるのは、誘致に終わらず、その後のケアをすること。移住してきた最初の頃は、やりたいことがいろいろあって、退屈しないが、そのうち飽きるし、冬はやることが少なく、出かけるのも大変。日常生活のなかで人とのつながりをつくるサポートをしてあげることが重要ではないか。移住はしたものの、寂しく思っている人もいると思う。ご自身は人のネットワークを開拓すべく、いろいろなサークルに所属したり、地域活動に顔を出したりしている。ブログをつけているが、先日、サークルのことを書いたところ、移住してきたという人から反響があり、仲間を求めている人がいることを改めて感じた。集まれる場所でも、相談窓口でもなんでも良いが、行政は呼ぶだけでなく、その後のケアを考えた方がよい。</u>

質問事項	回答
①属性	年齢：50代（男性） 職業：ロッジ経営 出身地：関西地方。前居住地は関東地方。
②移動先での暮らし方	移動時期：平成14年。 移動形態：家族でIターン 現住所：東北地方
③移動を考えたきっかけと移動の目的	定年前にサラリーマンとは違う仕事にチャレンジしたい。 <u>グリーンツーリズム運動を通じて、本物の自然を都会の子供達に体感してほしい。</u>
④移動地域の選択理由	<u>気候や観光地化されていないところ。</u>
⑤移動開始までのプロセス	ロッジを建てようと、場所を探し始めた。出張が多かったことからいろいろな所についていたが、上記の理由から当該地を選択。準備に約2年間がかかった。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	家族の反対はなかった。移住は大事業なので、家族の反対がある場合はやめた方が良い。 <u>大変だったのは物件の選択。田舎の不動産は高いということ、移住を計画している人に強く言いたい。額面上は安いかもしれないが、その土地を去る場合に売れないため、換金できない。また、相場がつかみにくく、業者は上手いことしかいわないため、実際のところがわからなかった。</u>
⑦現状の問題点および将来的な不安	移住先での困難は想定内であったが、過疎・少子化の典型的な地域であり、 <u>学校の廃校が進み、送迎負担が生じるのが難点。</u> また、診療所はあるが、将来的にも医師が確保できるかは不明。 <u>インフラの整備も課題。ブロードバンド化されていない。IT関係の仕事を在宅でという選択はここでは無理。</u>
⑧国・自治体に対する要望	Uターンだ、二地域居住だといっているが、盛り上がっているのは上のほうだけではないか。過疎地の人間としてはもっと地域に人が来ると良いと考え、地域振興に関連して、行政にいろいろ提案しているが、動きが鈍い。 <u>移住にあたって欲しい情報は当該地の不動産価格の相場や資金調達方法など。農業関係であれば、専門の金融機関による低利融資があるが、そうした情報が段階ごとに一括してあると良い。</u> <u>ネットではまかないきれない情報があるため、窓口は増やした方が良い。誘致についてももっとPRをした方がいい。</u>

No. 15

質問事項	回答
①属性	年齢：60代（男性） 職業：無職 出身地：関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：二地域居住は平成12年、定住は17年。 移動形態：夫婦でIターン 現住所：関東地方
③移動を考えたきっかけと移動の目的	日本の農業の活性化という夢があり、定年後はそちらに時間を使いたいと考えた。
④移動地域の選択理由	関東の他の地域で、 <u>購入を前提に物件を探したが、適したものがなく、クラインガルテンから農業をスタート。</u>
⑤移動開始までのプロセス	ガルテンの契約期限切れ1年前に、土地を借りて家を建設し、住民票を移した。 <u>土地は知合いの農家から借りている。農家の人は自分の代で土地を売りにたがらない。</u>
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	ガルテン入園の前段階の <u>土地探しが大変であった</u> 。近県では行政による空き家紹介のサポートを利用したが、なかなか成約できなかった。
⑦現状の問題点および将来的な不安	JAが管理している農作物の直売場で作物の販売を開始した。農家への第一歩である。しかし、実際に農業を行うなかで、 <u>機具の使用や一部の作業の委託に対する支払いなどに関する問題が出てきた</u> 。いらないという人もあれば、JAのコストを基準にする人もある。しかし、まだ職業的な農家ではないのでJAのコストでは割高になる。将来的には農業関係のNPOなどとして活動したい。企業にいた時は組織で活動していたのでわからなかったが、 <u>個人でできることには限界がある。同じ意識を持つ人や活動を見つけたいと考えている。マッチメンキングの機能がどこかにあると良い</u> 。団塊の世代には社会的な役割を果たしたいと考える人が多いのではないかと。
⑧国・自治体に対する要望	誘致ができたから成功なのではなく、 <u>その後の経過にも関心を持ってほしい</u> 。暮らしているなかでは、さまざまな問題が生じるが、 <u>相談する機能が欠けている</u> 。人の誘致を行うのであれば、受け入れ側も住居確保と就労・就農支援などの条件整備をする必要がある。

No. 16

質問事項	回答
①属性	年齢：夫（60代）・妻（60代） 職業：無職 出身地：ご夫婦とも関東地方
②移動先での暮らし方	移動時期：二地域居住は平成12年、定住は平成15年 移動形態：夫婦でIターン 現住所：甲信越地方
③移動を考えたきっかけと移動の目的	もともと <u>アウトドア志向</u> で、田舎で暮らしたいと考えていた。
④移動地域の選択理由	<u>自然環境の良さ</u> 。
⑤移動開始までのプロセス	最初はそばオーナーになったが、近隣にクラインガルテンがあるのを知って応募・入居。週末に通うようになった。しかし、 <u>通うのが負担</u> になってきたため、定年後は当地に定住。農作業のない暮らしは考えられなかった。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	住居の確保。当地は意外と家賃も高く、家を探すのは難しい。しかし、 <u>たまたま親しくなった地元の人</u> から家と畑が借りられることになった。
⑦現状の問題点および将来的な不安	定住以前に、ガルテンを通じて地元の人と交流できていたことが良かった。地元の人が協力的なところである。農作業が可能な時期は、自分の畑で作業をしたり、近隣の農家の手伝いをして過ごす。冬はアルプホルンづくりにこっている。 <u>車が運転できる限り</u> 、生活には不自由はないが、運転ができなくなると事情は異なる。終の棲家にするのは難しいと考えている。
⑧国・自治体に対する要望	－